

# 宇和島の離島についての調査

1年1組 井上晋之介 1年1組 高月 諒 1年1組 野田 憲伸  
1年1組 山下 貴大 1年1組 若下 航平 1年2組 河野 敬太  
指導者 田中 善久・鶴井 恭子・井上 栄治・富永 満生

## 1 課題設定の理由

離島地域の過疎化が叫ばれて久しい昨今、社会科等では学んだが、離島地域の本当の現状と課題を知るのは難しい。そこで、宇和島の代表的な有人離島について深く調査したいと考え、この課題を設定した。

## 2 仮説

- (1) 宇和島の離島は過疎化が進んでいる。
- (2) 過疎化は、産業の浮き沈みに関係している。特に好景気には島外へ移住する人が多い。

## 3 実験・研究の方法

- (1) 人口経過が記された文献や現地資料の調査
- (2) 現地に出向き、島民の方への聞き取り調査

## 4 結果と考察

宇和島市には、有人島が5つ（戸島、日振島、九島、嘉島、竹ヶ島）、無人島が48ある。無人島の中には、以前は有人島であり、現在は磯釣りの名所としても知られる御五神島などもある。図1は2009年における5つの有人島の人口を表したものである（データは宇和島市ホームページや参考文献を引用して編集した）。実際は、漁業権などの関係から、戸籍を移さず島外に移住している方も存在し、実際の人口とは差異があるという。一世帯当たりの平均家族数では3人にも満たず、核家族化が進んでいると思われる。我々は、この中で比較的調査がしやすい九島、日振島、戸島について詳しく調べることにした。

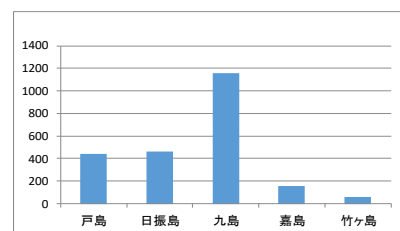


図1 有人5島の人口（2009年）  
（宇和島市HP等より引用して編集）

### (1) 人口推移調査

図2～4のグラフから、過疎化は3島共通の課題であり、進行具合は深刻であることが分かる（データは宇和島市ホームページや参考文献より引用して編集した）。3島では戦後をピークに人口が減少し続けており、戦後すぐに人口の流出が始まっていたことがうかがえる。戦後直後は人口が一時的に増加しながらもすぐさま人口の流出が始まったのは、復員で戦地から帰還してきた兵士の方々が一度故郷に戻りながら何らかの理由で島の外へ出て行った可能性が考えられる。さらに、1969年～1971年の日振島の人口の減少率を計算すると表1のようになり、前年比の10%以上も減少し続けている。この期間は、全国的に「イザナギ景気」と呼ばれる好景気の時期であり、島外に働き口が増加し、

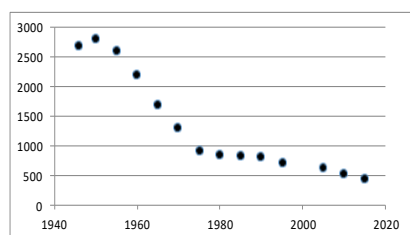


図2 人口推移（戸島）

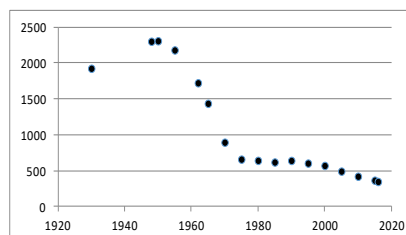


図3 人口推移（日振島）

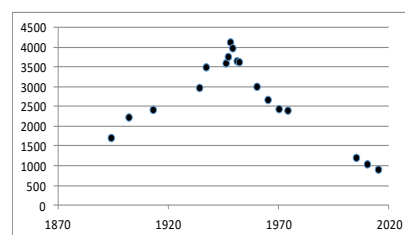


図4 人口推移（九島）

仕事を求めて人口が流出したと考えられる。なお、近年は人口の減少率は年率3～5%に落ち着いているが、行政による過疎対策が早急に求められる。

表1 日振島における人口推移と前年比増減

西暦(年)	1968	1969	1970	1971	1972
人口(人)	1224	1054	897	789	732
前年比増減	-8%	-14%	-15%	-12%	-7%

(2) 現地調査

10月に九島と戸島、11月に日振島を訪問し、現地の方々に多数御意見をいただいた。以下に示す証言(資料1)のように、島民も過疎化に危機感を抱いていることがわかった。特に、若年層が少ないことが課題である。また、原因として経済的・生活的に不便であるということが頻りに挙げられてきたが、宇和島市の離島の場合は、教育制度上の変化も過疎化の原因の一つになっていることが明らかになった。

資料1 九島・戸島・日振島の島民の意見(2017年10月・11月調査)

質問	証言
島の課題は何だと考えているか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十年ほど前に起こった制度上の変化があり、教育のために、子供がいる家庭が家族ぐるみで宇和島に移り住むことが増え、過疎化に拍車がかかった。(日振島・漁業・男性)</li> <li>・九島大橋が完成してからも人口は増えていない。一年に一軒くらい、家の数が少なくなっているように感じる。(九島・漁業・男性)</li> </ul>
職業の景気はどうか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩の方々は、魚が昔よりも獲れなくなったというが、自分が仕事を始めてからは年々漁獲量が回復しているように思う。自分は若いので、これからの島での生活に希望を持っている。(日振島・素潜り漁・男性)</li> <li>・第一次産業はバブルが全盛期だったように思う。今は衰退期。今年はテングサが好調で最高値を更新したが、他のサザエやアワビは卸す業者の数が少ないため業者間での競争が起こらず、値が上がらない。何とか生活している感じだ。(日振島・素潜り漁・男性)</li> </ul>
島の子供たちの様子はどうか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数が少ないので、みんな仲良く地域で密着して教育をしてもらっている。ただ、もまれていないので、中学・高校で学校の規模が大きくなると、気おくれしれしまうかもしれない。(日振島・小学校教諭・女性)</li> <li>・戸島の子供たちはみんな海に潜れます。かなりたくましく育っている。人数は少ないけどね。(戸島・事務職・男性)</li> </ul>

5 まとめと今後の課題

離島地域の大きな課題である「過疎化」を解決するためには、証言を総合して考えると、**①島民の多くが従事する第一次産業の活性化、②島の観光資源化、③島の教育の活性化**を推し進めることが必要である。①の場合、行政は養殖関係の発展に力を入れている。これは良いことなのだが、島民の証言にもあるように素潜り等も活性化する必要がある。②も、島の産業を活性化することが狙いである。ただ、「猫の島」として有名になった青島は一大観光スポットになりながら過疎化に歯止めがかかったという話は無く、②だけでは弱い。そこで、③が必要になってくる。仮に中高一貫教育など既存の教育よりもはるかに魅力的な教育現場を設けることができれば、子供がいる家庭の流出を止められるだけでなく、離島地域以外からも入学を希望する若い世代が集結するかもしれない。

参考文献

- ・田中皓正(2002)『日振島のはなし』大学出版部協会
- ・『ふるさと日振島』(1974)宇和海村公民館日振島分館
- ・『私たちの九島』(1976)宇和島市立九島公民館
- ・宇和島市ホームページ <http://www.city.uwajima.ehime.jp/>